

栃木県における小児・AYA世代のがん罹患状況について

本県では、昨年度より小児・AYA世代のがん患者等支援事業を開始したところである。

今後、更に効果的な患者支援を実施するため、全国がん登録のデータを活用し、栃木県内での小児・AYA世代のがん患者の実態を把握する。

1. 調査概要

対象症例は、2016年～2019年に診断された、診断時住所が栃木県の者に発生した原発性がんのうち、診断時年齢が0～39歳の症例。浸潤がん（C00～C96）のみを集計している。データについては、2022年6月13日時点のものである。

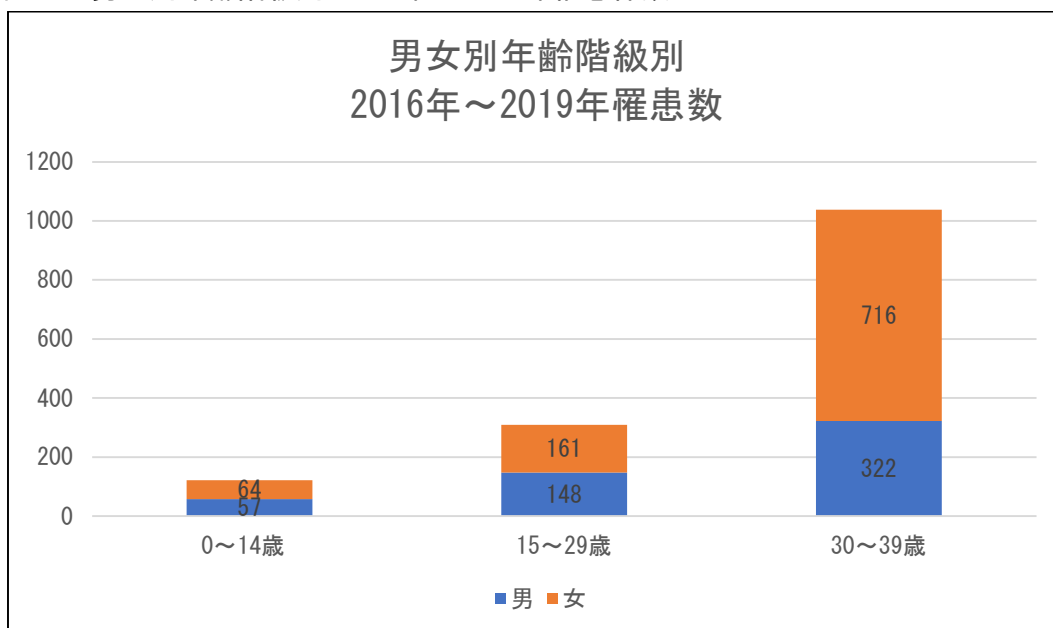
2. 結果概要

(1) 罹患数

栃木県内の0～39歳の罹患数は1,468件（男性527件、女性941件）であった。

年齢階級別に見ると、0～14歳の小児世代で121件（男性57件、女性64件）、AYA世代の15～29歳では309件（男性148件、女性161件）、30～39歳では1,038件（男性322件、女性716件）であった。特に30～39歳の男女比については、女性が男性の2倍以上の罹患数になっているが、これは、乳房及び子宮頸部の症例の増加によるものである。

図1 男女別年齢階級別 2016年～2019年罹患件数



(2) 二次医療圏別罹患数

診断時住所における二次医療圏別で見ると、性別による割合の差はほとんどなく、宇都宮保健医療圏が全体の約30%を占めており、次いで20%強が県南保健医療圏、20%弱で県北保健医療圏と続いている。ほぼ人口割合とリンクしており、地域間の罹患数の差はなかった。

図2 年齢階級別二次医療圏別（男女計）2016～2019年罹患数

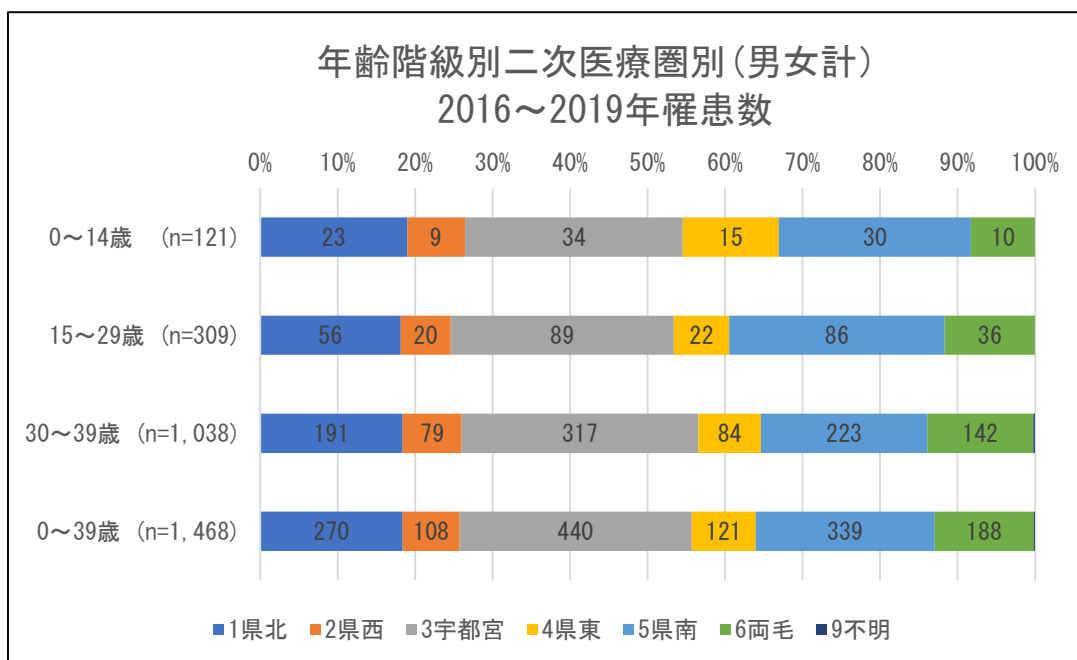


図3 男性年齢階級別二次医療圏別 2016～2019年罹患数

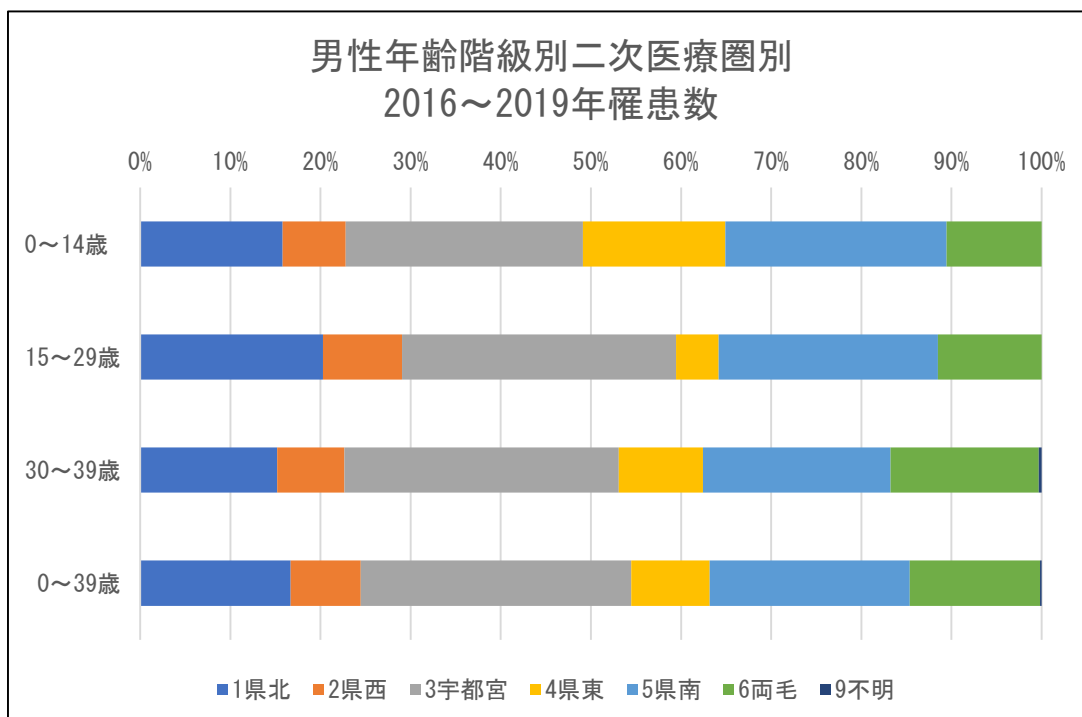
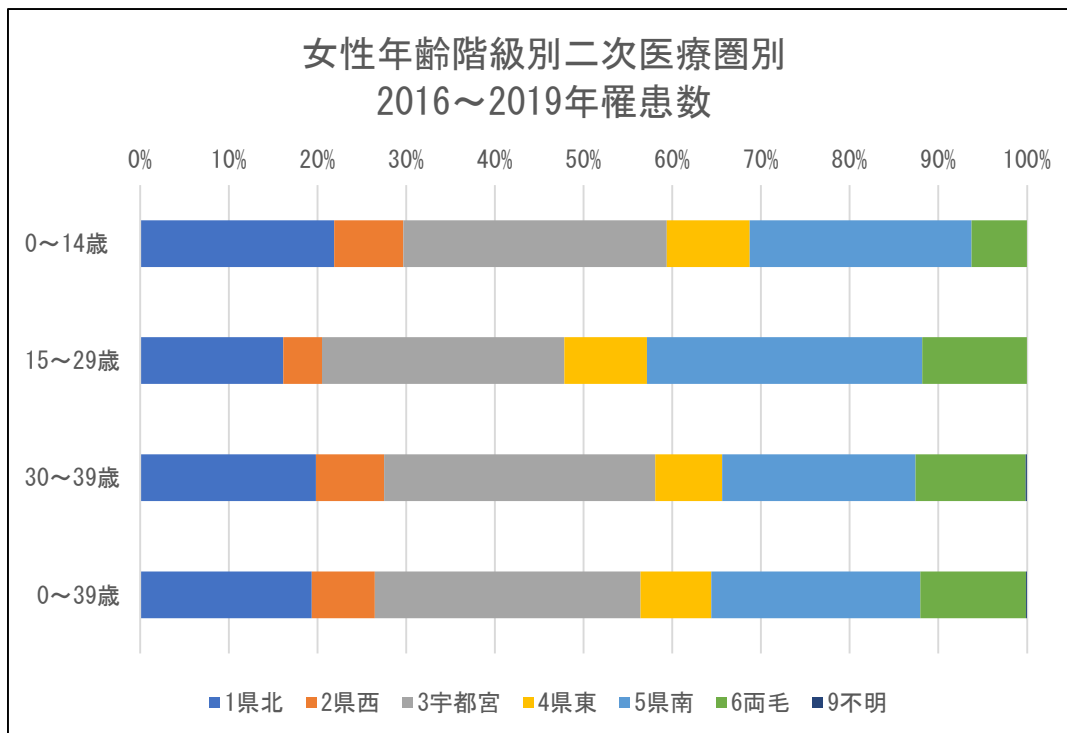


図4 女性年齢階級別二次医療圏別 2016～2019年罹患数

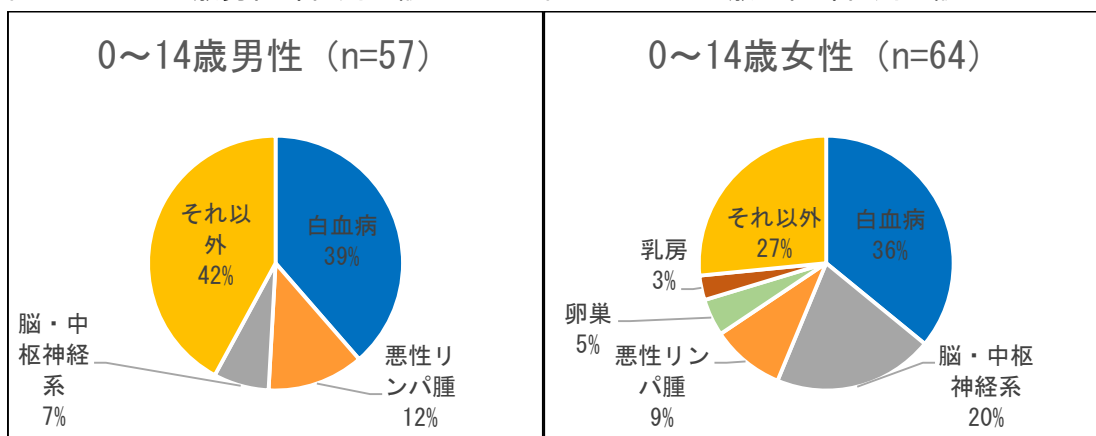


(3) 部位別の内訳について

0～14歳の症例においては、男女ともに白血病の症例数が最も多い。男性では、悪性リンパ腫、脳・中枢神経系と続き、女性では脳・中枢神経系、悪性リンパ腫と続いている。

図5 0～14歳男性部位別内訳

図6 0～14歳女性部位別内訳



15～29 歳症例では、男性は白血病、悪性リンパ腫、脳・中枢神経系・甲状腺と続いており、0～14 歳と似た傾向となっている。一方女性では、卵巣、甲状腺、白血病・乳房と続いており、若い世代で罹患数が増加する傾向のある部位の割合が増加している。

図 7 15～29 歳男性部位別内訳

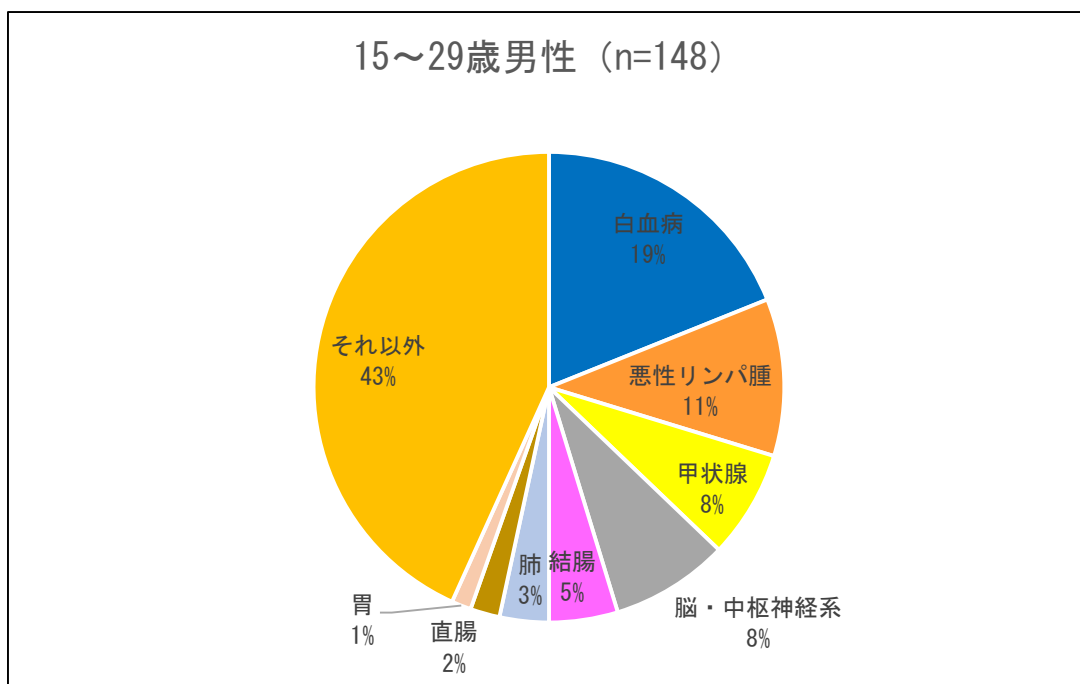
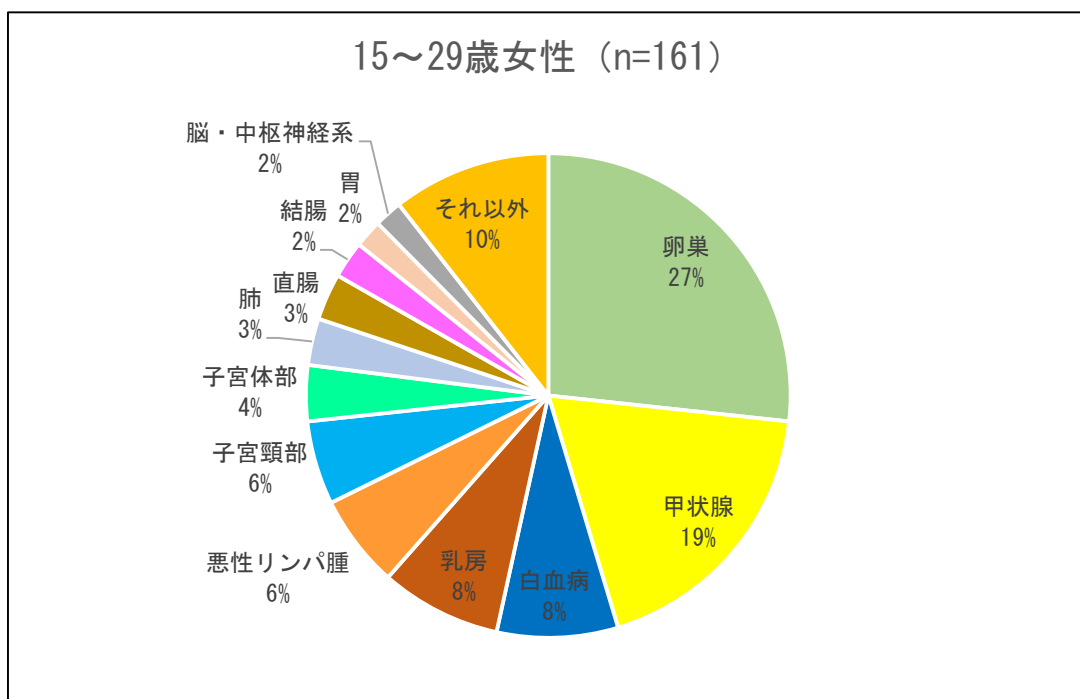


図 8 15～29 歳女性部位別内訳



30～39 歳症例では、男性は白血病、胃・直腸・結腸と続いている。小児世代多かった白血病等の割合が減少しており、突出して症例数が多い部位はない。女性については、乳房、子宮頸部が上位であり、若い世代で罹患数が増加する部位がより顕著に増加している。

図9 30～39 歳男性部位別内訳

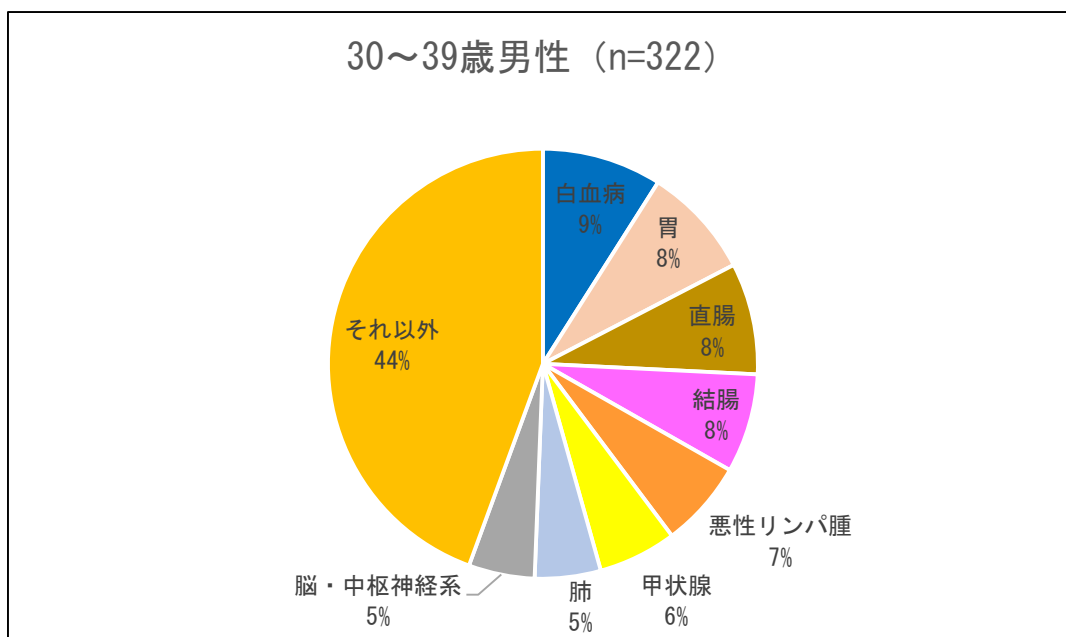


図10 30～39 歳女性部位別内訳

